

新幹線プレス



2024年 1月1日 No.651

発行者 伊藤 一也

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

明けましておめでとうございます。昨一年間の新幹線地本の取り組みに対して多くの激励、ご協力にあらためて感謝を申し上げます。

ロシア軍によるウクライナ侵攻からすでに2年近くがたち、さらにイスラエルではガザ地区を実効支配するハマスとの戦闘が激化しています。多くの子供を含めた市民が犠牲になっています。いかなる理由があっても戦争は許されない行為です。日本も、戦争が出来る国にする策動が、自民党・岸田政権を中心に推し進められています。

職場においては、年休裁判、診断書強要行政訴訟の闘いを通じて、会社の年休及び勤務の扱いがデタラメであることが満天下に明らかになりました。2月28日には年休裁判控訴審判決が出されます。また、会社は職場からの労働運動を拒否し、JR東海労組合員を「出向」により職場から放逐してきました。私たちは、会社の狙いを暴露しながら、淵上・本橋裁判を闘い抜き、今後もさらに会社を追い込む闘いを継続していきます。

会社は、リニア建設のための経費を生み出すために必死です。それが「業務改革」提案であり相次ぐ効率化＝要員削減は加速の一途をたどり、賃金抑制、関連会社への経費削減をもたらします。リニア中央新幹線建設は、即時に中止するべきです。まさに労働組合の真価が今問われています。

私たちは、JS労結成に学び、関連会社を含む全労働者の声を代表して果敢に闘いを展開します。今年も多くの闘いに挑まなければなりません。全ての闘いを組織強化・拡大に結実するために奮闘していきます。共に頑張りましょう。

会計監査	〃	〃	〃	特別執行委員	総務・教宣部長	企画・組織部長	書記長	〃	〃	〃	〃	〃	執行副委員長	執行委員長	
川本	木村	今城	佐藤	成田	平山	水野	田村	森下	綿貫	永井	板倉	滝波	土川	杉澤	伊藤
正行	良夫	敬一	敏	隆浩	裕一	良則	浩彰	暢紀	均	晃	晋	武	節夫	秀則	一也

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本部及び各地本の闘いに感謝を伝えると共に東京車両所分会は連帯し奮闘します。3月で国鉄採用の仲間はすべて専任社員になり二〇二五年度には多くの仲間が退職し新たな組織体制を次期大会までに確立する必要性の中より良い活動スタイルを模索し地本と連携していきます。車両所において会社はデジタルを活用して一層の効率化に向かっていく感じがします。社員、関連会社に更なる負担が増えるのは確実です。私たちは車両所で働くすべての労働者の声に耳を傾け各現場から出る声を大切に団結し信頼連帯を強化していくことが大切と感じています。車両所分会は社員の不安、不満に耳を傾け奮闘していきます。

東京車両所分会執行委員長 板倉 晋

新年明けましておめでとうございます。

昨年十月運輸所分会は、出向組合員と運輸所で働く組合員との交流会を開催しました。多くの参加者で職場での苦闘を語り合い、労働条件の改善に向けてそれぞれの立場で奮闘していくことを確認しました。今後も定期的に開催して行きます。

年休裁判控訴審は2月28日に判決を迎えます。年休はわれわれ労働者の権利です。第一審の勝利判決からさらに完全勝利を勝ち取るまで、原告団と共に闘います。また淵上さん運輸所復帰裁判も会社のおかしな人事の扱いを許さず一致団結して闘います。

職場内で渦巻いている不満に耳を傾け、働きやすい職場にするために共に頑張りましょう。

東京運輸所分会執行委員長 永井 晃

プライム会議は昨年十一月二十六日に定期総会を開催し新体制を確立しました。昨年は、懶シムツクスとの団交、また、新幹線関西地本の仲間と共にSEKとの団体交渉も開催しました。さらに、新幹線地本がSMT関係の問題を取り上げたバス停タイムスを作成し、品川バス停で配布しました。これらの取り組みにより、出向先の労働者のJR東海労に対する信頼は高まっています。そして、職場の問題を解決するためにどうすべきなのか考え始めています。

新幹線関西地本は、昨年出向先である懶関西新幹線サービックで御用組合にNOを突き付けて新労組を結成しました。私たちも、出向先の労働条件改善のために、出向先労働者との連帯をさらに強め、職場からの闘いをつくりあげます。

プライム会議議長 成田 隆浩

新年明けましておめでとうございます。

JR東海労は結成して32年になります。この間、職場では様々な弾圧と組織破壊を受けてきました。私たちはそれに抗し闘いをつくり組織を守ってきました。しかし昨年11月現在、組織人数128名になり、今年3月末には国鉄採用者は皆60歳定年を迎えます。さらに5年後の2029年3月末には退職となります。現役で残るのは平成採用の仲間だけとなります。

昨年8月、関西の地においてJRサービック労働組合（JS労）が結成されました。東京地区分会はJS労結成に苦闘された組合員の闘いに学び、東海の地に労働運動の灯を残し平成採の仲間を支えるために、本部・地本と連携して奮闘していきます。今年もよろしくお願いします。

東京地区分会執行委員長 綿貫 均

2024年新春おめでとうございます。

爽やかな新春を迎えられた事でしよう！との挨拶が虚しくなるような現実が、年金生活者であるわれわれOB会員を襲っています。

自民党政治は実効的経済対策を何ら打ち出し得ず、否、政治資金パーティーでの裏金問題など腐敗を極めていきます。世界では戦争が続発し、許し難い状況を呈しています。

本部は臨大を開催し、労連結成など新たな方向を決定しました。OB会も現場の仲間の意見を尊重し連携して取り組みます。高齢で体調を崩す仲間も多くいますが、職場で奮闘する仲間や地域の方々と力を合わせ、精一杯闘っていきます。今年も宜しくお願いします。

OB会会長 尾崎次夫

